



第14回

熊坂専修寺跡 (越前の高田派動向)

(福井県あわら市熊坂 75 字 1 番)

鳥越一向一揆歴史館友の会 / 北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回はあわら市の熊坂専修寺を紹介します。真宗高田派は親鸞が下野国高田(現在の栃木市真岡市高田)に嘉禄元年(1225)専修寺を開基し、門弟真仏(第2世)・叡智(第3世)が率いた高田門徒が布教して広がりました。本山は専修寺を名乗ったので熊坂の案内板では「せんしゅうじ」と振り仮名してありますが「せんじゅじ」が正しいと考えます。

叡智は三河国和田円善宅に滞在して布教し、弟子となった円善が和田門徒を率いて越前国で布教しました。円善の弟子の如道が正応3年(1290)に大町専修寺を開創して一大教団となり、後に三門徒派と呼ばれました。第10世真慧の越前国や加賀国での布教では三門徒派や時宗から宗旨替える者が多く浄土真宗内で佛光寺派に次ぐ勢力となりますが、本願寺8世蓮如が吉崎御坊を拠点に北陸布教を始めると高田派からも転派する門徒や末寺が多く出て、寛正6年(1465)延暦寺衆徒が大谷本願寺を破却した「寛正の法難」を機に真慧は本願寺と絶縁します。文明6年(1474)文明一揆では富樫政親に本願寺門徒が味方したため、高田派は弟の幸千代につき加賀守護を争うも敗れ加賀を追放されました。長享2年(1488)長享一揆では本願寺門徒は政親を自害に追い込み、高田派は政親に味方したため又もや加賀を追われます。永正3年(1506)一向一揆が越前に攻め込み、高田派と三門徒派は越前朝倉氏に味方して九頭竜川の戦いで勝利し、越前から本願寺一向宗の藤島超勝寺と和田本覚寺を加賀に追放したため、越前国内で高田派は一時期勢力を盛り返しました。

永正7年(1510)真慧は高田派本山の高田専修寺住持職を実子応真に譲ろうとしますが辞退されます。応真は長享一揆で自害した富樫政親の妻の連れ子で、妻は真慧の下に身を寄せて後に内室となりました。そこで常盤井宮家出身で後柏原天皇皇子の眞智に住持職を継がそうと考えて養子とし、同9年真慧が亡くなると天皇は住持職を眞智に認めます。これに反発した伊勢の直参坊主らが応真を擁立し、眞智を支持する三河や越前の大坊主と対立、住持職は眞智と応真を転々とし、大永2年(1522)ようやく和解して応真が第11世となって相続争いは一旦決着しました。しかし、天文6年(1537)応真が亡くなると争いが再燃し、永禄元年(1558)正親町天皇が堯慧に住持職を認めると、眞智は越前に熊坂専修寺を開創して本山争いを始めました。天正13年(1585)に眞智、翌14年に子の眞空が相次いで亡くなると熊坂専修寺は廃絶しましたが、本山争いは寛文3年(1663)まで続きました。

参考資料

Wikipedia

「真宗高田派」

「親鸞の生涯と高田門徒の展開」
平松令三著
法蔵館

現地案内板

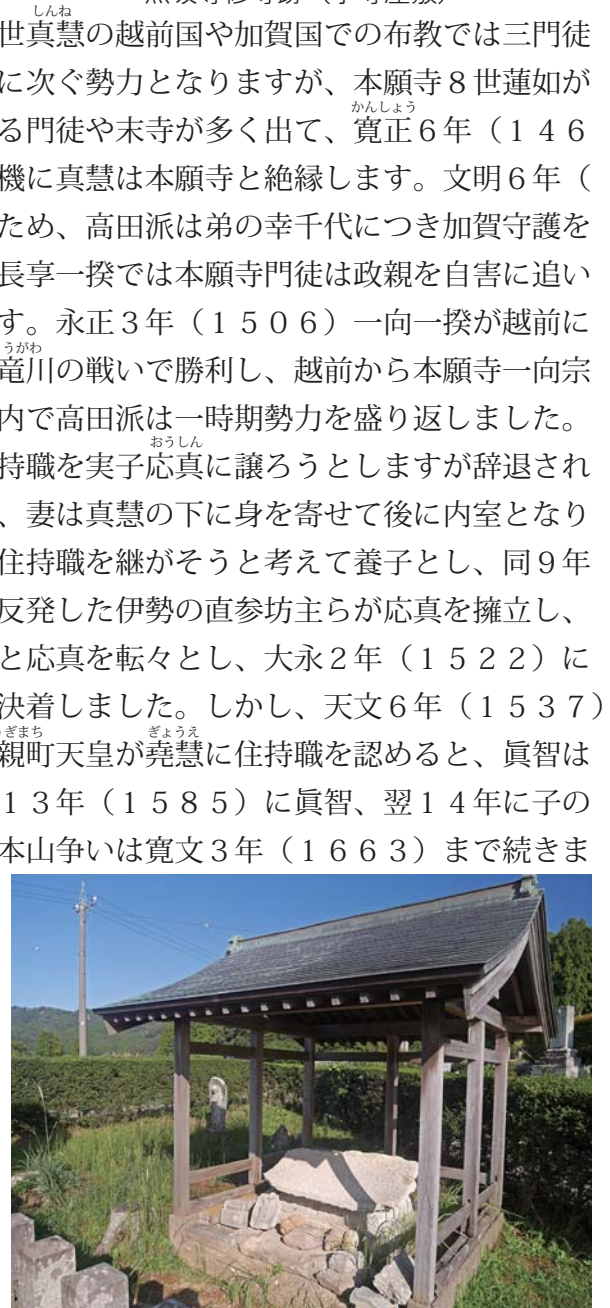
ほか



眞智上人の墓 (明治24年南方の田中から改葬)



熊坂専修寺跡 (字寺屋敷)



眞智上人の納骨塔 (墓の後方)